

二条中通信

第 8 号
二条中学校
H20. 5. 23
文責: 直江秀樹

*【学校教育目標】学ぶ楽しさを実感し、夢を持ち夢を実現するために努力する生徒の育成

中学校春季大会がんばった



去る4月29日に、西京極総合運動公園陸上競技場で、「京都市春季総合体育大会」開会式が行われました。今年、京都市全域から89校 7,271人の中学生が参加しました。市内各校の吹奏楽部の合同演奏に迎えられて見事な行進を見せました。当日は、素晴らしいお天気で参加者は歩くとすぐに額が汗ばむほど。本校の吹奏楽部も、この晴れの式典に演奏で参加しました。本校の選手団は、行進練習の成果をほぼ出せたかなと思います。

この日を前後して、各部活動の公式戦が行われました。二条中学校の生徒たちは、汗を流し自分と戦い苦しい練習を経て、この大会に臨んでくれました。朝早くから子供を起こし、弁当を作って応援をいただいた保護者の皆様、声をからして応援してくれたチームのみんな、友達、懸命に一つのことに打ち込むことの喜びがここにあると思います。しかしそれは、自分が一生懸命でなければ、決して味わうことができない経験でもあります。ありがとうございました。試合に勝つことは目標の一つですが、スポーツを通して人間的に成長することを目指しています。今後とも応援のほどよろしくお願いします。

【試合結果】 顧問の先生からのコメントや私の感想をつけています

*女子バレー部

1回戦 二条中 2 - 1 蜂ヶ岡中 [会場：二条中]

4月29日。会場は二条中学。バレー部の選手27人だけではなく会場が一体となった感じ。

練習試合では、勝ったことのないチームに自分たちの力を出し切って勝利！

2回戦 二条中 1 - 2 藤森中 [会場：藤森中]

5月3日。会場藤森。1セット目は、会場の雰囲気飲まれたか。いいところなし。2セット目は見違えるほどの粘りで、ジュースに競り勝つ。勝負の3セット目。ミスが出鼻をくじく。しかし、声が聞き取れないほどの熱狂的な応援で、23対23。あと2点に泣きました。

*女子テニス部(個人) [会場：西院コート他]

O・Hペア 桂川中に惜敗。(1回戦)

M・Yペア 同志社女子に競り勝つ。(1回戦) 藤森中に敗れる。(2回戦)

S・Hペア 周山中に圧勝(2回戦) 榎原中に完勝(3回戦)

桂中に敗れる。(3回戦)

(団体) [会場：下鴨中学]

1回戦 二条中 3 - 0 桃陵中 皆が実力を出して快勝

2回戦 二条中 1 - 2 栗陵中 2番手ペアが底力を出したが惜敗。夏につながる試合だ。

*サッカー部 [会場：大枝中学]

2回戦 二条中 0 - 2 桂川中

力のあるチームに仕上がってきた。負ける気はしなかったが……。

夏に向けて「気持ち」面の充実を。1人1人が実力をつけたい。



*陸上部 [会場：西京極陸上競技場]

男子円盤投げ S 33m72 5位

男子走り幅跳び H 5m21 8位

朝から強い日差しの中、体調管理が大変。日々向上、日々鍛錬で自己最高を目指してほしい。

*女子バスケットボール部

1回戦 二条中 13 - 77 京都御池中 [会場：二条中学]
1・2年生10名と少ない部員数でも、明るさと 暖かさと きびしさのある 手作りチームの良さを発揮して、夏に向かいます。

*男子バスケットボール部

1回戦 二条中 42 - 56 岡崎中 [会場：下鴨中学]
春は残念な結果に終わってしまいました。このチームでバスケットができるのもあと少しです。夏に向けて精一杯努力し、良い結果が残せるようにがんばりましょう。

*野球部

1回戦 二条中 8 - 0 洛水中 [会場：桂川中]
出だしは、調子が悪かったが、走塁・打撃の底力を発揮して勝った。

2回戦 二条中 10 - 0 醍醐中 [会場：桃陵中]
本塁打2本を含む長打力で、相手を圧倒して勝った。ほれほれするような本塁打だ。

3回戦 二条中 7 - 0 加茂川中 [会場：洛西中]
相手チームの好投手は2人。どちらも攻略して勝った。ベンチが明るく活気に満ちていた。

準々決勝 二条中 1 - 2 北野中 [会場：伏見桃山球場]
相手投手の緩急を織り交ぜたピッチングに、力を発揮できず。足場も悪くて、自慢の足も活かせなかった。最終回に、1点をもぎとったのが今後につながる。

注 意 事 項
最近、不審者による被害情報が増えています。下校時は、複数でできるだけ人目の多い道を歩きましょう。

でこぼこが 気づかせてくれる 鈴の音

長い間、私は道のでこぼこや小石を、なるべく避けて通ってきた。

そしていつの間にか、道にそういったものがあると思っただけで、暗い気持ちを持つようになっていた。しかし、小さな鈴が「チリーン」と鳴る、たったそれだけのことが、私の気持ちを、とても和やかにしてくれるようになったのである。

鈴の音を聞きながら、私は思った。

「人も皆、この鈴のようなものを、心の中に授かっているのではないだろうか」その鈴は、整えられた平らな道を歩いていたのでは鳴ることがなく、人生のでこぼこ道にさしかかった時、揺れて鳴る鈴である。私の心の中にも、小さな鈴があると思う。その鈴が、澄んだ音色で歌い、キラキラと輝くような毎日が送れたらと思う。

私の行く先にある道のでこぼこを、なるべく迂回せずに進もうと思う。

星野富弘『鈴の鳴る道』(偕成社)1986年発行

* 器械体操をしていた星野さん。事故で、今は車いす生活をしている。しかし、苦手なでこぼこ道は、澄んだ鈴の音を発見するきっかけを作った。部活で懸命な汗を流した君たち。今感じている「でこぼこ」(苦手なこと・自信がないこと)を避けているうちは、自分の中にある鈴の音を知らないままだ。ゆっくりでいいよ。「でこぼこ」を自分らしく進んでください。勇気ある一歩を踏み出す君自身で、鈴を鳴らそう。